

小学校と地域をつなぐ「キャリア教育」(後編) ～茨城県美浦村立木原小学校「キッズ☆カンパニー」を事例に～

筑波総研 株式会社 主任研究員
 キャリアコンサルタント 富山 かなえ

本稿は「筑波経済月報」2020年1月号(No.78)に掲載した研究員レポート「小学校と地域をつなぐ『キャリア教育』」の後編である。

前編では美浦村立木原小学校における「キッズ☆カンパニー」の立ち上げ経緯をはじめ、事業計画策定や融資審査会などキッズ☆カンパニーの活動概要を整理した。

後編では、同校の6年生が実際に商品を販売する販売会をはじめ、決算報告会、納税などの活動について整理した後、小学校と地域をつなぐ「キャリア教育」の展望についてまとめる。



「ハッピーフードパラダイス木原」社は、試食を用意して、販売促進を図った(2019.11.3 筆者撮影)

1. 「キッズ☆カンパニー」販売会の様子

2019年11月3日、美浦村中央公民館で行われた「“みほ”産業文化・スポーツフェスティバル」に、キッズ☆カンパニー6社が出店、各ブースには美浦村の特産品など約20品が並んだ。

(1) 「ハッピーフードパラダイス木原」社

同社の売上目標は71,350円、仕入額と経費を合わせて54,945円を借り入れ、販売会に臨んだ。

当日は「みほふれ愛プラザ地域産品直売所かあさんの台所」から仕入れたキャベツメンチ2個入り320円を70個、手羽先揚げ3本入り240円を70個、漬物220円を50個、味噌300円を30個、ペットボトル飲料150円を81本販売した。

「心に残る接客ができる会社」を目標に掲げた同社は、当日「お客様アンケート」を実施し、自分たちの接客について客観視する工夫を行った。結果は「心に残った」が13名、「心に残らなかった」が0名となったが、もっと母数を増やして検証すべきだったと振り返った。

(2) 「Wonderful☘ Happiness」社

同社の売上目標は71,800円、仕入額と経費を合わせて54,980円を借り入れた。販売商品は、「サンフレッシュ美浦」から仕入れたにんじんジュース(500ml) 600円を23本、揚げもち(のり塩・ニンニク味) 300円を各50個、ミニケーキ(チーズ・チョコ味) 400円を各35個であった。

同社では、売上目標額と実際の売上金額が一致した。一致の要因としては「ダブルチェックの励行」や「計算しやすい価格設定」が挙げられる。



「Wonderful☘ Happiness」社は、釣銭のダブルチェックの励行により、会計ミスが無かった(2019.11.3 筆者撮影)

また、同社は「にんじんジュース」の美味しさを広く周知するために、販売価格を800円から600円に下げる代わりに他の商品を値上げし、全体のバランスを取るという販売戦略を打ち出し(前編参照)、見事売上を伸ばすことができた。

(3) 「スマイルキッズ」社

同社の売上目標は71,420円、仕入額と経費を合わせて54,994円を借り入れた。当日は「㈱まちづくり美浦」から仕入れた安中いちごサイダー220円を76本、美浦産米サイダー200円を71本、美浦産パプリカスープとマッシュルームスープ450円を各45個販売した。

同社は金銭や販売個数を正確に管理する工夫として、「売上個数表」(下図)と「値段表」を作成。値段表には「220円の商品を6個購入した場合、合計は1,320円」というように、「値段×個数=合計金額」を事前に示しておくことで、計算間違いを未然に防ぐ工夫を行った。

また、お客がレジに並びやすいようにブース前の地面にテープを貼って動線を示したほか、販売ブースをL字型にして作業の効率化を図るなど、空間の使い方にも工夫が見られた。



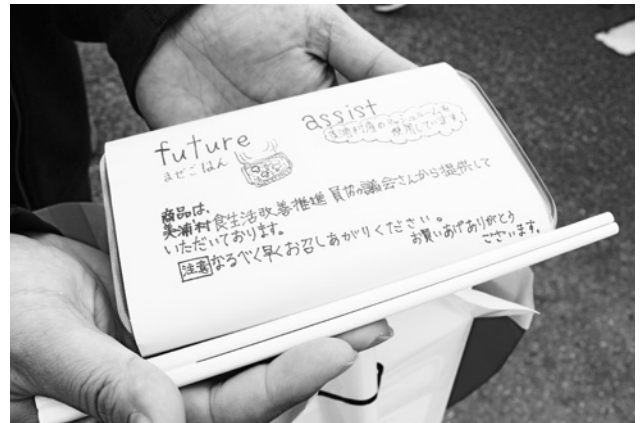
「スマイルキッズ」社は「売上個数表」を作成し、個数管理を行った(2019.11.3 筆者撮影)

(4) 「future assist」社

同社の売上目標は71,360円、仕入額と経費を合わせて54,952円を借り入れた。販売商品は、マッシュルームまぜごはん200円を300個、パック飲料80円を142本用意した。

同社は仕入れ先である「美浦村食生活改善推進員協議会」をPRするために、オリジナルの包装紙(下図)を作成した。しかし、包装紙が大き過ぎて、中の商品が見えなかったという反省点が残った。

また、飲料が最後まで残ったため、「まぜごはんと一緒に、飲み物もいかがですか」と営業するべきだったと振り返った。



「future assist」社は、オリジナルの包装紙を作成し、仕入れ先をPRする工夫を行った(2019.11.3 筆者撮影)

(5) 「サンデー☺️フード」社

同社の売上目標は66,300円、仕入額と経費を合わせて51,410円を借り入れた。販売商品は「そうざい屋かわぎし」の木原っこ弁当500円を65個、かわぎし弁当520円を65個。各弁当の名前は、同社が仕入れ先PRのために命名した。

同社最大の危機は、当日、社長が体調不良で不在だったことである。しかし、残ったメンバーが協力し、無事に商品を売り切った。また、弁当と袋の大きさが合わなかったことから、事前に2つの大きさを確認するべきだったと振り返った。

(6) 「ハッピー☺️サンクス」社

同社の売上目標は71,250円、仕入額と経費を合わせて54,875円を借り入れた。当日は「美浦村商工会女性部」から仕入れたハッピーちゃんワッフル(チョコチップ味143個、レーズン味142個)を各250円で販売した。

同社の誤差は0円。当日、お客から釣銭が間違っていることを指摘されたことで、社員の意識が高まり、さらに気を付けるように心掛けたという。

2. 「決算報告会」の様子

販売会の実施後、各社は事業計画で立てた利益計画と実際の結果を比較して決算書を作成し、「決算報告会」で報告した。当日の報告会では、商工会青年部2名と筑波銀行美浦支店長が参加、各社はパワーポイントで作成した資料をもとに売上報告や反省点、キッズ☆カンパニーからの学びなどを堂々と発表した。

(1) 売上目標額と実際の売上額の比較

販売会では、6社全てが午前中に完売した。うち3社が売上目標を達成したが、残り3社では誤差が発生してしまった。

誤差の無い会社の特徴として、ダブルチェックの励行や計算しやすい価格設定が挙げられる。一方、誤差が生じた会社は、お客が一気に来たことによる焦りがミスにつながったと反省した。

(2) 「キッズ☆カンパニー」での学び

キッズ☆カンパニーでの学びとして、各社からは「計画したことを実行する大変さと達成感」「お金の大切さ」「働くことの大変さ」「一人では何もできないこと」「地域の人々の温かみ」「この地域に住んでいる喜び」「父や母の苦勞を知った」などの感想が述べられた。

また、10年後に社会人となる自分へ活かしたいこととして、「責任感をしっかり持つ」「お金を計画的に使う」「お客様と接する時は笑顔でいる」などの目標を掲げた。



「決算報告会」では、各社がキッズ☆カンパニーから学んだことなどを堂々と発表した(2019.11.29 筆者撮影)

(3) 銀行へ借入金を返済

発表終了後、6社の社長は融資審査会で審査委員長を務めた筑波銀行美浦支店の木所支店長に借入金と利息を返済した。なお、キッズ☆カンパニーは、商工会青年部の予算で運営されており、融資返済は疑似体験だが、銀行の支店長が出席することでリアル感を持たせる効果がある。



各社社長が、筑波銀行美浦支店長に借入金と利息を合わせた金額を返済した(2019.11.29 筆者撮影)

木所支店長からは「皆さんの素晴らしい成長ぶりに感激しました。将来、車や家などの購入や事業のための融資を検討する際は、ぜひ、筑波銀行へ相談しに来てください」と語った。

(4) 商工会青年部からのエール

7年前にキッズ☆カンパニーを立ち上げ、年間を通じて児童たちを見守ってきた美浦村商工会青年部の鈴木聡使氏は「この半年間で、皆さんに“仕事は楽しい!”という想いを全て伝えたいつもりです。ここで学んだことを胸に、中学校でも頑張ってください」とエールを送った。

また、商工会青年部長で、株式会社中島製作所の中島竜樹氏は「日本中の6年生の中で最も良い経験をしたと思います。この経験を活かし、社会の先頭に立つ存在になってほしいです」と伝えた。

(5) 校長と担任教諭からの講評

木原小学校の校長 田組順和氏からは「将来、キッズ☆カンパニーを支えてくださった地域の方々に恩返しできるような人に成長してくれることを期待しています」と講評があった。

また、担任の小島亜希子教諭からは「キッズ☆カンパニーを通して、一人ひとりの良い面をたくさん発見することができました。キッズ☆カンパニーは今日で終わり、ということはありません。学んだこと、気づいたことを、今日から実生活に活かしてほしいと思います」と児童に呼び掛けた。

3. 美浦村役場への「納税」の様子

2019年12月13日、各社の代表が美浦村役場の村長室を訪問。「納税」の疑似体験という形で、キッズ☆カンパニーの利益の一部、9,967円を納税（寄付）した。当日は、美浦村長の中島栄氏と教育長の糸賀正美氏が出席。中島村長からは、起業の苦労や各社が販売した美浦村の特産品に関する質問などがあり、各社長は堂々と受け答えをした。また、新聞社3社が取材に訪れ、納税の様子を写真に収めたほか、各社長にインタビューを行った。



美浦村長室で行われた納税の様子 中島村長（左から2番目）、糸賀教育長（左）と6名の社長（2019.12.13 筆者撮影）

中島村長は「小学生の時に社会の一面を体験できるキッズ☆カンパニーは、素晴らしい取り組みだと感じています。これは、美浦村商工会青年部をはじめ、地元企業や筑波銀行のご協力のおかげです。ぜひ、児童たちには、将来、美浦村で起業していただき、世界的な企業にまで成長させてほしいと願っています」と声援を送った。

また、糸賀教育長は「今年は児童一人ひとりが果たす役割の範囲が広くなり、より多くの経験を積むことができたのではないかと思います。この経験を活かし、将来、美浦村のリーダーになることを期待しています」と伝えた。

4. 「キッズ☆カンパニー」とキャリア教育

最後に、小学校と地域をつなぐ「キャリア教育」の先進事例として取り上げたキッズ☆カンパニーの効果などについて、木原小学校の先生方の言葉をお借りしながら整理したい。

キッズ☆カンパニーは、美浦村商工会青年部員の「働くことの楽しさを伝えたい」という想いと木原小学校の理念が合致し、これまで7年間続いている。活動継続の背景について、田組校長は、「商工会青年部の全面的なサポートと多くの方々のご協力のおかげで、ここまで継続することができました。本当に感謝しています」と振り返る。

また、地域との連携や今後の展望については、「商工会青年部を通じ、地元企業や団体、筑波銀行との連携が年々強まっていると感じています。また、毎年児童が真剣に取り組む様子から、キッズ☆カンパニーは本当に価値のある取り組みだと実感しています。今後はさらに授業の質を高め、独自の活動として定着させたいです」と語った。

「キャリア教育」はすぐに変化が見えづらいと言われるが、児童の変化をすぐ傍で見てきた小島教諭の感想が印象的だ。「児童たちは指示を待つことなく、自分たちで考え、行動できるようになりました。これこそ、キッズ☆カンパニーが持つ力だと感じています」。

また、田組校長は「児童たちがキッズ☆カンパニーで学び、気付きを得たことで、『成績が上がる』『リーダーになる』『やりたいことが見つかる』などの変化がすぐに表れてくるとは限りません。しかし、児童たちが何かしらの変化や成長を遂げ、将来に向けて大小さまざまな一歩を踏み出したことは間違いありません」と語った。

キッズ☆カンパニーを通して、多くの児童が「働くことの喜びと厳しさ」「地域の人の優しさ」と心強さ」「自分の特性や他人との関わり方」を学んだことは明らかである。「キッズ☆カンパニー」のように、小学校と地元企業や銀行、団体などが連携して子どもたちの「生きる力」を養い、子どもたちの“自分らしい生き方”の実現を支援する取り組みが各地で増えることを願いたい。